

## SDGsはじめました

松木 喬

## 第1回 取引条件？経営の道しるべ？疑問だらけで始めるSDGs

最近、仕事や生活の場で「SDGs(エスディーゼーズ)」という言葉をよく見聞きするようになった。“持続可能な開発目標”と訳されるSDGsは、近年、企業にとって経営戦略上の重要目標となりつつある。生産現場においても例外ではないが、現場にとっての意義や価値は十分に理解されているとはいえない。本連載では、とある町工場の夕陽丘製作所のエピソードを通じて、SDGsとは何かから、取り組むプロセス、ポイントを解説していく。

2019年X月X日夕方、外出先から戻った古町工場長が、総務部にやってきた。イスを差し出しながら萬代総務部長はたずねた。



「工場長、取引先に行っていたはずですね。総務部に何か用ですか」



「中越電器産業の役員から、“エスディーゼーズ”をやってほしいと言われたんだよ。萬代君、知っているか、エスディーゼーズ？」



「確か知っている大企業のホームページで見たことがあります。うちに“やってほしい”ってどういうことですかね？」



「取組みを決めて、宣言してほしいって言うんだよ。まだ先でよいそうなんだけど、検討しておいてほしいそう。ところで、その企業のホームページは？どんな取組みをしてるんだ」

萬代総務部長はパソコンで企業名を検索した。「会社案内」「サステナビリティの取組み」と順番にページを開くと「SDGs達成に貢献します」と見出しのあるページが映し出された。「エスディーゼーズは『SDGs』のこと。そして国連が合意した『Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)』の略称がSDGsである」と書かれている。



「なぜ、国連の目標に企業が貢献するんだ？」



「これってISOみたいなものですかね？」



「私もISOの一種かと思ってね。だからSDGsも総務部の担当と思ったんだ。私は理系だし、萬代君、悪いけどSDGsについて調べてくれないか」

萬代総務部長の頭には浮かんだのは「ISO14001」だ。環境マネジメントシステムと呼ばれる国際規格で、以前も取引先に勧められて導入した。確かに節電、コピー用紙の節約、廃棄物の削減で成果があり、コストダウンができた。一方、規格通りに運用しているか審査を受けるため、費用もかかった。

SDGsのアルファベット4文字に不安を抱きながらも、夕陽丘製作所のSDGsが始まった。